

深化の過程

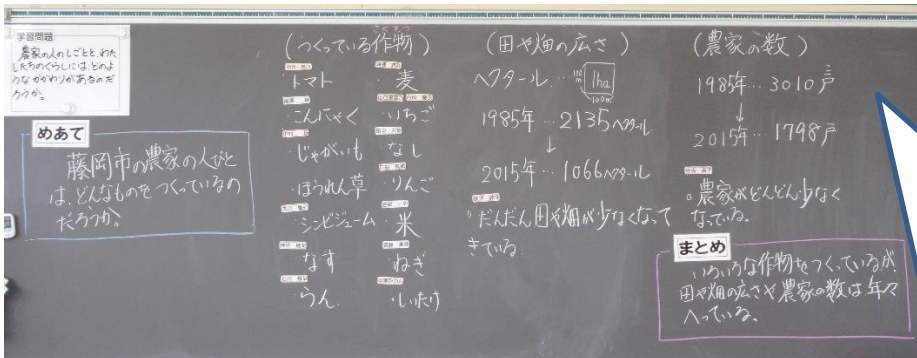


2021.08.02
No.8

☆授業実践報告③

7月5日(月)の教科部会ではお世話になりました。今回は、算数部会の協議の様子をお伝えします！
※算数部会ですが、ご自身が担当している社会科での授業実践報告をしていただきました。

＜3年社会「わたしたちの暮らしと人びとのしごと 1. 田や畑ではたらく人のしごと」 杉本先生＞



○登下校の際に見かけたことがあるかどうかについて投げかけていく中で、資料にはあるが実際にはあまり見かけないものがあることに気づかせることができた。また、児童から「ビニールハウスで作っている」という発言があり、次時へのつながりをもたせることができた。

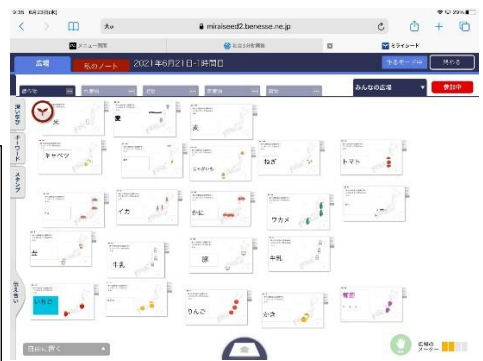
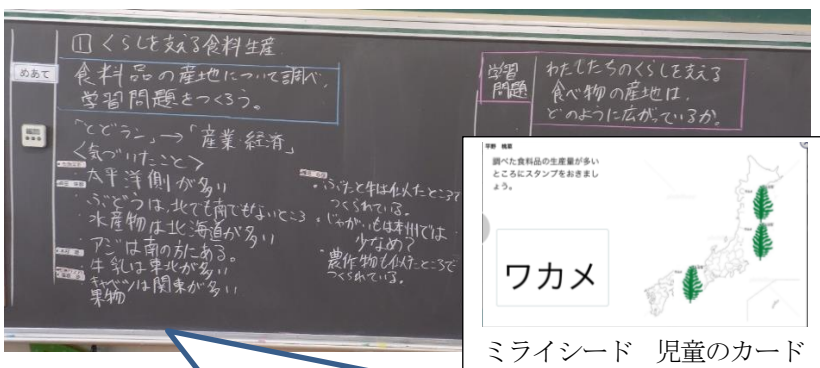
○「農地が減っている・農業従事者が減っている→食べ物が減っているのでは？」という疑問が自然に児童の口から出てきた。5年での社会の学習につながるよいつぶやきが引き出された。(食糧自給率のことなどに簡単に触れておいた)

●自分の考えに対する『追加・変化』を促すような授業の組み立てにならなかった。

※拡大投影した資料



＜5年社会「くらしを支える食料生産」 岡村先生＞



ミライシード「ムーブノート」ひろば

- 一人一人が別々のものを調べ、共有することで、それぞれが「調べる」「まとめる」の活動ができた。
- ムーブノートの活用によって、情報の集約、共有が短時間で行えた。(発表の手間を省けた)
- 上記の理由で、その次の気づいたことを考え、発表する時間の確保ができた。
- インターネットでの調べ学習を取り入れたが、調べさせる方法の精選が必要。
- 気づいたことを発表させる際のタブレットの扱いについて、工夫や指導が必要に感じた。

☆社会科では、資料の読み取りや活用が重要ですよ。中学年でそうした技能を習得しておくことで、高学年での資料の活用につながるのだなと改めて感じました。タブレットの活用も…頑張ります。(文責：山崎)

